



『トクシマ・アンツアイガー』

第2巻

第8号

1915年11月14日

セルビアでの軍事作戦

セルビアでの我々の新たな攻撃開始から、僅か数週間経過しただけだ。同時にいくつかの陣地で我々の部隊は、北から国境の河川ドナウ河とサヴァ川を強引に渡った。ボスニアではセルビアを西から攻撃する。更に他の軍団が配備されている。我々の部隊と同時に東からブルガリア軍が前進した。

すでにこの作戦の当初に故郷の新聞が述べていることは、軍事消息筋の見解によればこの軍事作戦は大規模な戦闘ではなく、第一に戦略的な動きであるらしい。一連の大規模な戦略的機動はその間に報告されているが、しかし当然ながらかなりの数の激しい戦闘なしに行われることはなかった。我々とセルビア軍の間に決定的な戦闘はまだ起こっていないように思われる。我々の大規模な地形確保と比べて、捕獲した捕虜の数は今まで約

15、000 人と多くはない。どこで決定的な戦闘が行われるか、またそういう戦闘に至るかは、これまでセルビア軍によって示された勇敢さから疑いの余地はない。しかしここから概観することは出来ない。ドイツ＝オーストリア軍はニッシュの北 40 キロにある。首都はベルグラードからニッシュに移されていて、ベルグラードはブルガリア人によって奪われていた。北東ではブルガリア軍と接触が行われ、ニースグラードの西から前進しているドイツ＝オーストリア軍とも同様に連絡がなされている。そのために今は北から全セルビアを通過する長い線が形成されている。ごく僅かの鉄道線路があるだけのこの殺風景な地形には道路がほとんどなく、また越え難い山脈で占められているが、我々の進軍は実にすばやく向かうことが出来たので、全てが細部に至るまで準備が整っていた。また我々の部隊には、いまだ戦争の開始時と同じ精神が宿っていることも証明された。我々と共同で行われた旧セルビア、つまり最後のバルカン戦争前にセルビア王国を形成していた地域における作戦を除いて、ブルガリア人は実に成果に富んだ南部での一新セルビア―彼等にとっては恐らく大部分がかつての戦勝の報奨のお陰である地域の作戦を完遂し、セルビアを南へ閉じ込めることに努めているように思われる。それは彼等にキョプリル、ウスキュプ等の占領で大部分達成されている。非常に重要なことは、セルビアとギリシャを結ぶ鉄道線路は揺ぎ無くブルガリアの所有であることだ。

セルビアを助ける意図からギリシャの港ザロニキには英仏軍が上陸し、その勢力については相矛盾する報告がこちらへ来ている。今までのところでは、我々の主たる敵の比較的弱い勢力が、セルビアの有利になるように介入したように思われる。すでにベルグラードではイギリス軍がセルビアと共同で戦っているが、セルビア側は多分それ以前に派遣された部隊に由来している。ブルガリア軍はザロニキ＝ウスキュプ路線沿いのヴルダル溪谷で、フランス軍と衝突したようだ。最近の電信はドイツ軍がフランス及びイギリス軍を、ブルガリア南西部の町シュトルミツァから追い出したことを伝えている。これは広範な意味をもつ報道である。というのはこの

ドイツ軍は多分、北部セルビアの戦場から来た可能性がある。もしドイツ軍が通過したのなら、その道はハンガリーとブルガリア間の輸送に対しても、同じくトルコへの輸送に対しても開かれていよう。ハンガリーとブルガリア間のドナウ川の交通は、故国からの最近の報道によれば再開された。このルート上のセルビア側ドナウ川の港は、我々の部隊に占領されている。モラヴィアとニエオヴァ溪谷を通して、ベルグラード、ニッシュ、ピロット、ソフィアを経由して通じるベルリン―コンスタンチンノーブル間の最良にして最も早い鉄道連絡も、もし今日なおニッシュから隔たっている我々の部隊が、40 キロメートル進軍したとすれば我々の占領地内であろう。

つまり今までに新たな戦場で次々に成果が獲得された。望むらくは我々の部隊がまもなく、決定的な打撃を与えることに成功することである。そうすることがオーストリア＝ハンガリー皇位継承者殺害の扇動者たちの犯罪に対する当然の報いとなるう。

日本の刀剣（2）

もっとも広く用いられている刀剣は刀と脇差だった。刀は典型的な日本の刀剣である。その刀身は軽く反っている片刃で、いかなる彫刻やその他の装飾も施されてはいない。刀身は小さな木製の棒の中にしっかり収められている。その木製の棒は握りの部分に向かい合っている二つの穴と、その二つの穴にピッタリ合う刀身の舌状の部分の穴に嵌め込まれている。戦の装備をする戦士はこの鞘を湿らせていた。それは乾いてしまうと縮んで緩くなるので、しっかりさせるために湿らせるのである。刀剣の握りは通例白い顆粒状のエイの皮で覆われている。上部の端に頭（かしら）という金属製の装飾部、平らで長細いボタンの形状をしたものがあり、その長い方の各々の穴は握りの周りをくぐるんでいる絹の紐を通す役目をもっている。絹の紐の柄板は、握りの両側の小さな金属の飾りである目貫を固定し、

刀剣を握むときの安定度を大きくする。下部の握りの端は、同じように装飾が施された嵌輪、つまり縁で取り巻かれている。

刀剣の付属品の中で主要にして豪華な部品は鐔、つまり柄である。その装飾には日本の工芸家はあらゆる技法を振り向けて、彼等の技術の粋を駆使した。柄はとりどりの金属の混合物、その結合物からなり、それが多彩な装飾作品に、象嵌を嵌め込まれた彫金作品になる。それとともに単なる鑄造鉄から成る目を見張るばかりの工芸作品が、繊細なレリーフへとメダルのように彫り込まれるが、のみときりで完成された造形物へと仕上げられるのである。これらの技術的な多面性ととともに、少なからず我々の耳目を揺れ動かすのは、柄に描かれている全くもって尽きることのないモチーフの豊かさである。柄と競っているのは頭（かしら）、カヌキと縁である。

刀剣の鞘は木製で色彩豊かな漆が施されている。趣味の良さという慣わしによって、鞘は眼を惹くような装飾が施されることは許されなかった。それ故鞘には華美な金具は見られず、漆塗りはひたすら細かな蒔模様、きらきらとした輝き、網目か大理石模様で満たされている。鞘は中央上部に鉤があり、それが帯から刀が滑り落ちるのを防いでいる。鉤の上部には穴があって、その穴に絹の紐が通って結ばれ、また戦の前にはその紐とゆったりした着物の袖が結ばれている。時に金属製の留金、つまり鐔と似たような装飾が施された鞘尻が鞘のずんぐりした端を保護している。鞘の多くには上部の両側に細い溝がある。一つは短剣、つまり小柄ないしは小刀を納めるため、もう一方の溝は刀針、すなわち笄（こうがい）という長い尖った短剣で、恐らく我々の懐剣のように、多分戦いの中でも手裏剣として使用された。刀針、つまり上方のスプーン型の鉤に至る道具の目的は不明である。

刀と脇差の金具以上に豊かなのは太刀の鞘覆いであった。しかし日本の刀鍛冶は太刀においては一般に、刀と脇差の場合に見られる丹念さを見せてはいない。刀と脇差の装飾の仕方は、最も啓発的でヨーロッパの収集家

に最も評価されている、日本の金属工芸家の小型芸術作品に属するものである。

第 26 回コンサート 11 月 14 日

第 1 回シンフォニーコンサート

演奏曲目

- | | |
|---------------------------|--------------|
| 1. アレグロ・マ・ノントロポ | L.v. ベートーヴェン |
| ヴァイオリンとオーケストラのための二長調協奏曲から | |
| 2. 皇帝四重奏 | J. ハイドン |
| 3. アイネ・クライネ・ナハトムジーク | W.A. モーツァルト |
| セレナーデ | |

開演 8 時

音楽を聴くことについて若干

音楽を聴くことについて？どうして特別なのだろうか？それは健全な耳を持つ人が誰もが聴けることではないというのだろうか？なにしろ私にはっきり分かることは、今のは高い音、今度は低い音、今度は大きな響き今度は微かな響きで、悪い響きがあると次にはそれが良い響きに解消される。そんなことや更にもっと多くのことを私は耳にする。それでは何故それについて語ろうとするのか。こんなことを口にするのが正しいのか。勿論この聴き方についてさえきつと語ることが出来るであろう。というのも多くの人は決してそのように聴かず、最後にはきつと神々しいアポロン劇場から、彼らも一緒に口ずさめる流行歌のメロディーが流れることをただ待っているだけで、それ以外はお仕舞いまでゆっくりと退屈を忍んでいるので

ある。—そこで私は一度、どのように音楽の響きという豊かな贈り物の中で人は黄金を認識しうるのかを示してみたいと思っている。ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲を考えてみる。これはひとえにある男が機敏な指で規則正しくヴァイオリンを弾けるように書かれている、といった考えに至る者など誰一人いないだろう。いやしないさ。それでは全ての喜びは既に台無しになっている。ともかくも一度全体の印象に向かって、最初の疑問を投げかけてみよう。その協奏曲は惨めか、真面目か快活か、あるいは全く楽しげなのかと。我々はしばしばリハーサルで協奏曲を聴いた。それで我々ははっきりと知るのである。その協奏曲は多分真面目であるが、それでも内に喜びの基調がある。その基調とは、私の友人の一人が最近言ったことだが、これ以上によい表現は全く出来ない基調である。その人はその協奏曲を「クリスマス音楽」と名付けたのだ！楽しい真面目な祝祭だ！もちろんその際我々にはその基調があった。まあ、一度聴きたまえ！最初オーケストラが格別にぶい響きをたて、その後すぐに期待に満ち溢れたヴァイオリンが問いかけるのが、いかに神秘に満ちていたことか。もう一度四つの響きが鳴り、するともう祝祭の準備への問いかけがいくぶん確定する。今度は澁刺とした動きが始まり、大小の不意打ちを感じて、終に我々の喜びは上へと突き進み、最初是一个の楽器が歓呼し解き放つ走句で、やがては多くの楽器の走句で、最後は全オーケストラの走句の中でその表現を見出すのである。そんな風にオーケストラが手短に、ある程度我々を活気づけてくれたこと全てを、今度はもっと親密にもっとゆったり寛いで、さらにオーケストラとヴァイオリンのソロとの交互演奏の中で見出すことが出来る。すると再び期待に満ちた問いかけを聞くが、今度は前と違って実にはっきりと、もっと素晴らしい答えが得られることを確信しているかのように聞こえる。それから我々が聞くのは…。私は全てを暴露しないようにしよう。今ちゃんと注意深く聴いている人は、自分の感覚の側面演奏が全く共鳴するのを感じることが出来る。というのも真面目さやかすかな悲しみも我々には委ねられているからである。クリスマスの絵の感覚でそ

れを説明するとすれば、多分こんな風に言えるであろう。それはもしかすると、この祭りにも関わらずもはや我々の間にとどまってははいない、この世を去った、愛する友人の思い出であると。しかし表面的なそのような解釈は音楽の本質を捉えてはいない。音楽は我々の感情をかき立て、そして諸現象の形象は、例えば音楽それ自体によってではなく、再び感情によって我々の中に解き放たれるが、聴き手の誰においても異なりうるものだ。音楽を聴くとはすなわち自分自身の中に深く沈潜して、音楽が呼び覚ます神秘なる活動に聴き耳を立てることなのである。

新たなるカトリック伝道教会の献堂式典

先週日曜日は、我々のオーケストラと合唱団にとっては意義深い日だった。その日は彼等に初めて「客演旅行」を行い、収容所以外で彼等の技術を見せる機会をもたらした。

この地のスペイン伝道会の指導者であるアルバレス伝道師殿が、新たに建てられた伝道教会の献堂式典に際して、我々に音楽を演奏してほしいと頼んできたのであった。これに対する許可が収容所当局によって快く認められたので、我々の音楽家たちは喜んでアルバレス宣教師に感謝の意を示す機会を掴んだ。師はすでに我々の元で種々のミサを執り行っていた。

いろいろな立場からの判断によると、彼等の業績は日本の数多くの地区に強い印象を与え、住民にも大きな関心を引き起こした。当地の新聞は祝典について次のように報道した。

「定礎式が今年2月に執り行われた、徳島司教区に所属する徳島カトリック教会の献堂式典は、日曜午前9時に開催された。祭壇の前にはマリア像があり、脇には三聖人の像が据えられている。式典には県、商業学校、中学校及び小学校の代表に混じって、幾人かの新聞社代表が列席し、アルバ

レス宣教師によって聖体拝受を執り行ってもらった大勢の信者たちが来ていた。もう一人の宣教師が豪華に飾られた教会の中でミサを行った。当局の許可を得て、63名のドイツ人捕虜も参加していた。合唱団はハンゼン指揮者の指導の下で、思いがけずに集まった人々に賛美歌「自然における神の栄光」によって、祈祷のもつ深い厳粛さを感じさせた。祝典後、さらに祝宴が開かれた」。

スポーツ週間

我々の行事は今回天候が問題になるような悪い星の下にあった。ほとんど一週間中雨で、そのために我々は競技の開始を延期せざるをえなかった。木曜日にやっと最初のサッカー競技を開催することが出来た。

抽選によって試合は第1チーム対第3チームが先頭を切ることになっていた。9時過ぎに最初のキックが始まった。最初のハーフタイム30分間は一進一退で、どちらのチームもゴールを決めることは出来なかった。

その後、まるで特別な競技魂が我々の第1チームの中へ入り込んだかのようにだった。間断なく彼らは敵のゴールに襲い掛かり、やっと呪縛が解けると、彼らはなおも疾駆する最初のハーフタイムの15分で6ゴールを得た。これに対して第3チームは何も得られなかった。しかし次の半分の時間は、第3チームがミスを犯して意気消沈してしまったことを見せつけた。彼らは肯定的な成果を得ることでは成功しなかったが、ほとんど終始一貫したその優れた守りによって、このハーフタイムでは遥かに強力な相手チームに2回のゴールしか許さなかったので、試合は8対0で終わった。

即位の祝典行事について

今月水曜の 10 日以来、日本全国と同様に徳島も祝典の飾りで華やかである。即位の大典行事が始まったのだ。数千もの旗や小旗や提灯が通りに絵のような祭りらしい華やかさをかもし出している。ほとんど全ての家々の正面は色とりどりの垂れ幕で覆われ、各家の門の前には門松が立てられている。どうやら各通り住人たちは統一した飾り立ての仕方を申し合わせたようである。かくして所々に実際見事な効果を生み出した。特に表通りにおいては多くの場所に記念アーチが建てられ、そうした中で大橋の上に建てられた二つのアーチは格別美しく出来上がっている。

水曜の午後 3 時半丁度に祝砲が轟き、日本人みんなが熱狂して「万歳」を叫び、港に停泊している汽船は実際耳をつんざくほどに汽笛を鳴らした。

日本各地で同時刻に同じことが起こった。兵営では加えて更に 21 発の礼砲が打ち鳴らされた。日本中でこのように大音響で祝われたこの瞬間は、総理大臣大隈伯爵が京都の宮殿で祝意を奏したその同じ瞬間だった。

その日の午前古くからの慣習に倣って、ここ徳島においても 80 歳以上の老人全てに天皇からの贈り物として盃と祝い金を手渡された。

その後今月 13 日まで毎日、旗行列か夜の提灯行列が続いた。16 日には兵営では将校のために、県庁では役人のための一大祝宴が執り行われる。それに招待された者たちは記念硬貨が貰える。14 日から 16 日までは、通りという通りで行進や踊りが繰り広げられるが、それは我々の謝肉祭に似ている。

即位の祝典行事の予定は以下のようなものである。

11 月 6 日：天皇の京都行幸

11 月 10 日：この日に三つの主要行事が執り行われる。

- 1) 高御座に就くことを天皇が祖先に告げる奉告の儀
- 2) 午前 9 時、神社の前での『三種の神器』の儀式
- 3) 午後 2 時、紫宸殿で祝われる大嘗祭

11月11日：あと祭り。『三種の神器』の神社での御神楽
 11月12日：二度目のあと祭り。
 11月13日：新嘗祭の前の祭り。
 11月14日：天皇が自ら神聖な捧げ物（米と酒）を皇室の祖先に捧げる新
 嘗祭。11月10日の二度目、三度目の儀式同様に新嘗祭は即位の礼の
 頂点である。
 11月16日：臣下のための祝宴（日本の音楽である雅楽付）
 11月20日から26日：あと祭り
 11月27日：東京への還幸。
 11月28日から30日：あと祭り。
 12月2日ないし3日に閱兵式、及び12月4日ないし5日観閲式が行われる。

チェス・コーナー

（駒の略語 K = キング、D = クイーン、L = ビショップ、
 S = ナイト、T = ルーク、B = ポーン）

第 59 問の解答

1. Dh2-f2 任意の手
2. D で詰み

第 60 問の解答

1. Dh3-h7 Kc4xd5
2. Lg7-f8 任意の手
3. D で詰み

第 60 問、その他の解答

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. Kc4...b4 | 1. Ke4b3 |
| 2. DB7-c2 Kb-a3 | 2. Dh7-e4 Kb3-a3 |
| 3. Lg7-f8 詰み | 3. Td5-d3 詰み |

正解を送ってきたのはヨーゼフ・ヴェーバー。

第 61 問

白：Kb5, Dg4, Te4, L8, f4, Sa4, g5, Bb3, g3, h5, h6

黒：Kd5, Td8, Sa7, g8, Sg1, Bb4, b7, c5, d4, g6, h7

2 手詰め

第 62 問

白：Ke4, Tb2, d8, Sd5, Be5

黒：Kc4, Ta5, Be5, e7

3 手詰め

告 知

これから毎週月曜午前 11 時に、収容所とシュルツ海軍中尉殿を通じて興味深い出来事の話し合いが行われることになるようである。

更にラーハウス火工副兵曹殿は、毎週水曜夕方 7 時から 8 時まで一般的な興味を惹く内容の講演の夕べを行う予定である。

テーマとして予定されているのは：

『最高指揮官としてのフリードリヒ大王』

『ブリューハヤーとグナイゼナウ』

『動員』

『機動部隊』等

チャールズ・ディケンズ『決闘』

出版：第Ⅳクラス、印刷：『トクシマ・アンツアイガー』印刷所

価格 10 銭でまだ数部入手可能

トクシマ・アンツアイガー広告部

来週のお勧め品は以下のとおり

ブラウンシュヴァイク風ハム	1 ポンド	40 銭
燻製ソーセージ	1 ポンド	40 銭
アイスバイン、塩漬けと茹でたもの	1 ポンド	25 銭
アスピックカツレツ	1 切れ	15 銭

注文は月曜夕方までに

謹白 オットー・ハンナスキー

紙面不足のために「U ボート乗員」の記事の続きは次号に回す。

編集部

なおもう一度言わせて頂くが、どんなサイズの雑巾も有難く頂戴する。

広告部

愛するアンナ！

イギリスのせいで僕に起こったある不面目を伝えねばならないことを、君は多分残念に思うだろう。イギリスにはその同じ不面目のお返しをきっとするつもりだ。というのもこれは突発事故で、イギリスがそれで息を吹き返した低俗さを感じることが出来る。そして、ともかく僕たちがロンドンへ船で渡れば、僕は同じことをきっともう一度口にするだろう。ひょっとするとそれは悪魔に持ってゆかれるかもしれないね。何故ならこれは、もし捕虜になれば、兵士は怒りで爆発するかもしれない事柄だ。

愛するアンナ！つまり僕たちがイギリス人に対して 200 メートルの距離で野営していると、たぶんいずれ何発かやつらにお見舞いするだろう。一頭の子牛が草を食むためか、又はただ何の気なしなのか、僕たちの塹壕とイギリス人たちとの間にある畑に向かって行った。そのために僕たちは子牛を呼び寄せるように、牝牛の鳴き声を真似た。その子牛でシチューかウィーン風シュニッツェルが作れるように。しかしイギリス人ドブネズミたちがその出来事に気がついて、こいつらも同じように牝牛の鳴き声を上げて、子牛を自分たちの方へ来させるように方向転換させた。愛するアンナ！というのもこいつらは僕たちの鳴き声より上手で、君にも本物の牛の声と区別がつかなかったかもしれない。そこで中尉殿が言った。クネチュケ、子牛をイギリス人牝牛どものところ行かせてはならん。それで僕は立って鎧を身につけそれにモミの枝を括りつけたので、子牛は安心してその場を離れなかった。それで、その兜を被って這いながら子牛まで前進し、細縄を用いてそれを手に入れた。しかしそれを持って戻ろうとした時、イギリス人たちが立ち上がり、それをめがけて激しく突進してきた。そこで君は恐らく、ああよかったと思うだろう。としかしこれが違う。彼らは再び戻ってきて、僕を連れて行った。そして彼らは正義が存在するのと同じく

らいに、真実そのことをもう一度いずれ悔いることになるだろう。

愛するアンナ！何故なら僕は今や 20 名の衛兵司令部によってイギリス軍の前線の背後にいて、イギリス人のっぽ野郎はまるでベルリンを手に入れたかのような表情をした。それで連中はどやどやと集まってきて、喜びに大騒ぎをし、今やドイツはおしまいだと思い違いを言った。そして一人のバナナ野郎が、僕に踏んづけられると僕に唾を吐いた。彼は多分僕の長靴にどのくらいの釘が打ってあるか、皮膚を見れば後になっても多分数えなおすことが出来るのだ。その後イギリス人白セキレイどもは僕を小突いて酒蔵へ連れていき、そこで僕は拘留された。僕が気を失うほどの憤りを感じたと言っても、君は多分それを信じてくれるだろう。その一方で僕はその酒蔵が食糧貯蔵所であることに気づいた。隣には沢山の貯蔵品が眠っている 6 枚の格子板の仕切りの中に僕は入った。愛するアンナ！それで僕は聖なる怒りのせいで、大量のビスケットと手桶一杯のマーマレードジャムを貪り食った。そのせいで僕は蠅取りのようにねばねばになった。それから僕は開いた天窓へ視線を向けて、「ハハーン」と独り言を言った。僕は頭を突き出して、3 メートル下に屋根がボール紙で覆われた納屋があるのを確認した。そこで僕は慎重に天窓を抜けて、壁に沿って下に滑り落ちた。今や君に報告しなければならないことは、したたかな激しさで屋根の上に降りたので、屋根に穴を開けてそれをつき抜けて、納屋の中にあつた大きな樽の中にドボンと落ち込んだ。

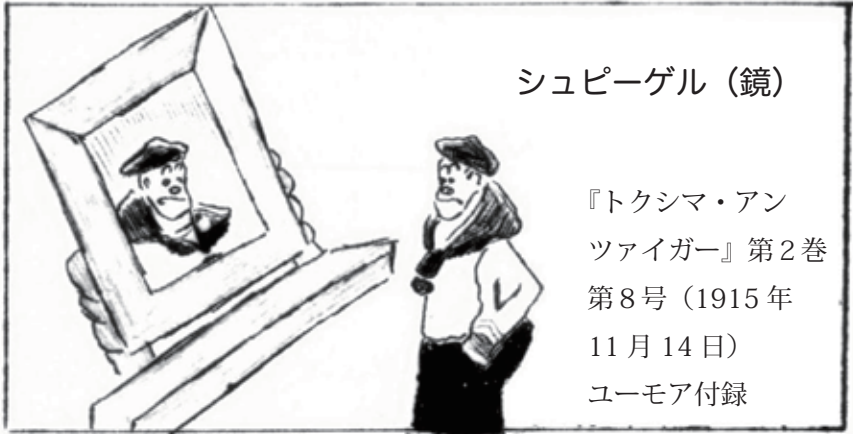
愛するアンナ！君はもしかすると、これは今作られたお話だと思うかもしれない。しかしそう考えないで欲しい。僕は現実的な考えを持ち、嘘をついたことのないちゃんとした人間だ。そして更に全く違った事が起こるが、それは別な時に書くつもりだ。その後樽から出ようとしたら、イギリス人雄山羊どもが納屋の中にある糧食を彼らの荷馬車に積み込んで、前線へ発送するためにやって来た。そいつ等は飲酒癖患者のような状態で、やかましい歌をがなりたてていた。それで僕は樽の中に戻って蓋をした。ねえー君、もしかするとそいつ等は僕を郵送物かマーガリンと思ったのかも

しれない。というのも納屋の中は乗馬用長靴の中のように真っ暗で、二日酔いでなくてもイギリス馬糞コガネムシのように失敗を犯しやすい。それで奴らは『ルール ブリタニア』を響かせながら僕を荷馬車の上へ引きずり上げたが、そこにはさらに他の貯蔵品があった。愛するアンナ！そして僕は今や、誰かが『グッド・バイ』と言うのを聞いた。それは『ハイヨー』に当たる英語だ。すると馬が繋がれて、僕は夜の中へと疾駆した。激しい喜びを感じた、という僕の言葉を君は多分信じてくれるだろう。で僕は辺りを眺めるために頭をそっと樽から出した。僕のまん前に見えたのは、馬を操っている一人のイギリス兵で、外は暗い街道だった。そこで僕は樽からぐっと伸びだしたが、それは爽快だった。そうして僕はつまりブレードのように脆い人物をえたのだ。それで僕はそのイギリス兵を殴り倒した。その男は多分それを 42 センチ砲と思ったかもしれない。

愛するアンナ！その後僕は手綱をつかんだ。君はもしかするとイギリス兵臆病どもの糧食調達のために、僕が右に向きを替えなかったと想像するかもしれない。そうではなくて真っ直ぐに向きをとった。つまり僕はこれがドイツへの方向だと賭けた。ねー君、その時僕は突然、これは特急列車だ、と誰かが言うようにテンポを速めた。というのはイギリス兵のならず者たちが疑念を抱いて、激しい弾丸の雨を注いできたからだ。しかし 15 分が経過すると、僕はサーチライトに照らされ、そして塹壕からある声が聞こえた。もしこいつがクネチュケでなければ、俺は胡椒と塩をまぶしたきゅうりを食ってもいいぞ！愛するアンナ！そこで僕はすぐさま見回して、その声がイギリス兵たち森の頓馬の声ではなくて、我らが中隊からの声で、それで僕は途方もない歓喜に陥った。というのも我々の中隊は前哨所にいたからだ。そして僕は中隊長殿に糧食と、頬っぺたが風船のように膨らんだイギリス人御者を引き渡した。しかし中尉殿は僕の肩を叩いて、こう語った。クネチュケ、君は感心な若者だ。君の恋人は君を誇りに出来る！今や僕はこう説明して締めくくらねばなるまい。それは間違いで、僕は子牛のせいで恥をかいたので、まずはさらにその失敗を償わねばならないのだ。

これを誓って心から愛する君に口づけを送る。

ハインリヒ・クネチュケ



シュピーゲル（鏡）

『トクシマ・アン
ツアイガー』第2巻
第8号（1915年
11月14日）
ユーモア付録



たかり屋獅子王

再びジャガイモについて



今日はもう一度
ジャガイモの話をしよう
いきなり引き合いにしたのは
日々当を得たように
肉とスープにはドイツの習慣では
ジャガイモも熱望される。
だがそれを食べられるようにするには、
皮をむいて茹でることを忘れては
ならない。

最初のことを確認すると

ジャガイモは分隊風に皮をむくこと。

班ごとにジャガイモの皮をむくこと

というのは第一にともかくそれが習慣に見えるからか？

そして第二にそれが出来なければ

またそれを学ぶ。

しかし私は無骨にこれ以上

問いかけずに

君たちにこの詩のわけを言おう：

収容所ではスポーツと遊びに励む

時にたっぷり、時にはまた

幾分少なめに。



それからクラス別の授業が行われている
精神と教養を維持するのにももちろん良い。

すでに英語、スペイン語、フランス語、
またイタリア語、オランダ語

そして中国語が話されて
エスペラント語と日本語に

格闘している者たちも、
そしてまだ他のことだって

言えと言えた。

ともかくこれは

素晴らしく、 またそれなりの価値がある。

それで授業は見ての通り実に要望が多い。

たとえ 6 人がけの机に

一人しか授業を受けに来なくても

一緒にここのテーブルにベンチまで持っていくと

残りの者にとっては単なる不運である

何故なら、材木を買って机を拵えさせれば

その間に地面に座る必要はなくなる

しかしジャガイモの皮むきで

各専門でただ一人が欠けたとする

二人が歌を歌い、一人がヴァイオリンを弾き、

四人目が跳躍してスポーツ祭典のための練習をすると、

10 人からなる班のうちで



ただ一人で、その一人だけでするのかどうか。
思うにこれはやはり実に不愉快で
厨房長には役に立たない。
何故ならその時には皮付きジャガイモが出る。
そして全く正直に言うと
すぐさまその時にはそのことで
紳士方に面と向かって怒鳴られるのだが、
彼等自身めったに皮などむいたことはないのだ
どんな事にもそれに叶った時がある。
その時になれば
安心するがいい、
他の人々にもっと配慮できるようになる。
で、おれに
ジャガイモの皮を
むけっというわけか。

